

健やかな子育てのために～その3～

「子育てはこうあるべきだ」という答えがないと言われていました。答えがないからこそ人は悩み迷うのではないのでしょうか。

子どもは「家庭でしつけられ 学校で学び方をおしえられ 地域で鍛えられる」といわれるように、親や家族だけで子育てはできません。しかし、親として自分の子どもをどのような子どもに育てるのかという「我が家の教育方針」をしっかりと持って子育てをすることが大切だと思います。

健やかな子どもを育てるために、次の事柄を参考に、自分の子育てについて振り返ってみませんか。

Ⅲ心を耕し心を育て 心を伝える子育て

1. 心を伝える子育てを大切にしていますか。

「言わなくても子どもは分かってくれる」では、親の心は伝わらなくなりました。「親の背を見て子どもは育つ」も通用しない時代になりました。方法はいろいろあるにしても「心を言葉で伝える努力」をしましょう。

2. 子どもの自律心を育てるための努力をしていますか。

何でも親や祖父母が手を出し過ぎないように、また、言いなりになってしまわないように、優しさの中にも厳しさを持って子どもに接しましょう。約束を決めて守ることの大切さを教えてやりましょう。自分のことは自分でできるように、更には、家族の一員として家庭の仕事の分担をしましょう。

3. ある日の新聞にこんな一文が載っていました。考えてみませんか。

ないないづくしの子が増える学校

- | | | | |
|----------|--------|----------|--------|
| ・いつも満腹 | やる気がない | ・手をかけすぎて | 自立がない |
| ・すぐさまあきて | 続かない | ・物に毒され | 心が育たない |
| ・エンジンあって | ブレーキない | ・ハンドルあって | 目標ない |
| ・漫画育ちで | 考えない | ・刺激多くて | 感動ない |
| ・注意されても | 聞く耳ない | ・教えてもらう | 謙虚さない |

味

あらかると

二〇〇二年の新学習指導要領完全実施を目前にし、NIE(教育に新聞を)を「知の総合化」という視点からとらえアプローチしていくとする学校が増えてきた。

NIEは、「自ら学び、自ら考える力」と、その前提になる「言語能力」「思考力」「メディアリテラシー」を総合化できる一方策であると考えられる。

新聞というメディアは、学習材化が自在であり、学習者主体の学習活動も展開できる。また継続して読むことにより、「読む力」「書く力」「思考力」が育成され、新聞は「無意識の国語教育の教材」となる。さらにスクラップ、比較読みなどを通して高度情報通信社会に即応する「メディアリテラシー」を培うことも可能である。

これらNIEの特質の浸透化が学校現場への実施に拍車をかけることにもなる。

Q : 特集記事の取り上げ方について注意する事など、教えてください。
(北上市 P T A 広報委員)

1 . 特集記事とは？

「ある事柄についてできるだけいろいろな角度からその問題点をうきぼりにし、その結果、読者にも何らかの問題意識を持たせる方向に持って行く」意図で取材・掲載されたものと言うことができます。

そしてもちろん、その号の中で一番の目玉となる記事でもあります。

2 . 取り上げ方

(これは、全国学校新聞コンクールP T A 広報の審査基準にもなっています。)

- 企画性..... 特集・企画ものが読者の関心にこたえる内容となっているか
- 指導性..... P T A 活動の様子が紙面に反映され、かつP T A 活動のオピニオン・リーダーとなっているか
- ニュース性..... 行事・出来事をタイムリーにとらえているか
- 地域性..... 全校的な協力体制で作られ、地域や学校の特色を生かしているか
- 編集技術..... 見出し・レイアウトが工夫され、読みやすい紙面になっているか

3 . その他

取材活動のひとつとして次のような方法もあります。

- ・ アンケート調査
- ・ インタビュー
- ・ 座談会
- ・ 密着取材 (ルポルタージュ)



雑草が目立ってきたら・・・

野菜やスパゲッティなどのゆで汁を熱いうちに草にかけます。
生育力が弱まり枯れてきます。除草剤の使えないところでも安全です。
ただし、イネ科の植物には効きません。

ぴい～たいむ

ちょっと
ひとやすみ
知ってます？
こんなこと

広報づくりのポイントは？

～平成13年度第1回PTA新聞づくり講習会～

5月11日（金）午後2時から
北上市常盤台・北研修センター
主催：北上地区新聞教育研究協議会



熱心に講習を受ける参加者たち

今回、私たちぴぴっと研究会は講師という立場で参加しました。

まず、会長が『子育てマナビセンターからの情報発信』と題して、広報づくりのポイントについて講義。続いて、実技講習。広報づくりの実際について順を追って説明、参加者が例文に見出しをつけるなど具体的作業の後、意見交換をしました。

講習の合間に、各校から持ち寄った広報をお互いに見る時間を設けましたが、参加した人たちにはとてもよい刺激になったようでした。

また、今後パソコンを使った新聞づくりに備えて、実際にデジタルカメラを手にして使い方の学習も行いました。

会後のアンケートによると、自分のやるべき仕事があったという感想が多くありました。

どんどん記事を集めようかな

=夏休み親子スクラップ教室=

7月31日（火）午前10時～午後3時
北上市常盤台・北研修センター
主催：ぴぴっと研究会



切って、貼って、ハイ出来上がり！

教室に集まった小学生5名を含む計10名の参加者は、大きな見出しや気に入った記事をさがしノートに貼っていくという作業に、喜々として取り組んでいました。

参加した子供たちはこれまで余りじっくりと触れたことのなかった新聞のおもしろさを発見したようです。

このような教室が、新聞に興味を持つきっかけになればとぴぴっと一同願っています。

情報が子供たちに与える影響を考える

第6回 NIE 全国大会参加

教育現場での新聞の活用法を探る N I E 全国大会が < 21世紀をひらく N I E > をテーマに 7 月 27 日・28 日の両日神戸市で開かれ、ぴびっと研究会からも参加しました。

大会では、作詞・作曲家阿久悠氏の記念講演の後、パネルディスカッションでは「あふれる情報が子供たちに与える影響と N I E が果たす役割」などについて話し合われました。

NIE 情報

平成 13 年度岩手県小・中学校新聞コンクール
募集部門 学校新聞の部(小・中)
学級新聞の部(小・中)
個人新聞の部(小・中)
P T A 広報の部
スクラップの部
応募締め切り 平成 13 年 11 月 16 日(火)
応募先 各小中学校

県内参加者の感想

批判的に見る目育つ

元岩手県北小校長

ぴびっと研究会会長

小笠原味佐枝さん



今年四月、地域の方々とともに黒沢尻北公民館を会場に「新聞を読んで今を語る会」をスタートさせた。
高度情報化社会の今、情報伝達手段がテレビ、インターネット、電子メールなど多様化している。

子どもたちに判断力

北上市・口内小教諭

高橋 雅子さん



本大会に参加し、N I E は子どもたちに考える力や情報への判断力を身に付けさせることに役立つことが分かりました。
分科会では、具体的な実践例が発表されました。シドニー・オリンピックのきたいと思いません。

(岩手日報 平成 13 年 8 月 9 日)

しんぶんまめちしき

その5

< 明治初期の新聞の回し読み 銘酒店で? >

現在の情報化社会における新聞の果たす役割は大きく、ほとんどの家庭で、新聞を購読しているといえる。また、会社やホテル等では何種類かの新聞を縦覧できる状況にある。いわゆる「新聞の回し読み」ができる。

平井隆太郎氏は、明治初期の新聞の回し読みについて次のように記している。

明治初期の新聞は、現在に比べて比較的高価であった。したがって、一枚の新聞はいくつかでまわし読みするのが普通であり、各所の新聞縦覧所は大いに繁昌した。新聞縦覧所の始まりとしては、明治 5 年 9 月付けの「郵便報知新聞」第 16 号が報ずる横浜の無料縦覧所が早い頃のものであり、この頃から郡部を問わず有料あるいは無料の新聞縦覧所が設けられ、一種の流行となっていった。

石井耕堂氏の「明治事物起源」によれば、明治 30 年ごろから浅草の銘酒屋が縦覧所の看板を掲げるようになったということである。

(太陽コレクション かわら版新聞より)

私たちがぴびっとも発足以来 1 年半がたち、活動に深みと広がりを持たせたいと奮闘しています。
ご感想等、ぜひ、お寄せください。

編
集
後
記

TEL・Fax : 0197-65-0758
E-mail : agi@titan.ocn.co.jp